

解答

一

問一 ① 反映 ② 有無 ③ 自我 ④ 品種 ⑤ 努（めて）

問二 同一性があらかじめあるという保証はどこにもないのに、個別の中から同一性を描定してしまうという点。

問三 エ

問四 イ

問五 再現可能性

問六 ウ

問七 精神

問八 科学の理論は再現可能性を追求するので、不変で普遍の同一の対象を指し示すことのできる形式言語が望ましいから。

二

問一 ① 困（り） ② むなもと ③ 念願 ④ 模様 ⑤ 光景

問二 前期課題が終わり＝安心しつつも、さいほうがへたな自分をふがいなく思う気持ち。

問三 a エ b イ

問四 七（文節）

問五 ウ

問六 ア

問七 雪が降る時期ではないのに、肩のついた白いものを雪と言った洋子がおかしかったから。

問八 第二段落：いきなり教 / 第三段落：言葉をさが

解説

一

問二 第五段落で、カラスを例に我々の脳のクセについて説明しています。段落の最後に「我々の脳はそういうクセを持っているのである。」という一文があるので「そういう」の指し示す内容を説明しながらわかりやすくまとめます。

問四 第九段落の「それは国民国家」で始まる一文に理由が述べられ、選択肢イと同じの内容を言い表しています。

問八 ……部5の前にある段落で、自然言語から形式言語の体系へ移行してきた理由を述べているので、再現可能性を実現するために形式言語が必要であることを説明します。

二

問六 直前にある洋子と涼ちゃんの会話に着目します。「重いでしょ」と洋子が気遣う言葉に対し、涼ちゃんが若い頃の話をして平気だと主張する様子から、選択肢アの内容が読み取れます。

問七 本文の最初と最後で描いている洋子の現実の世界は、五月の風が吹き、中学に入学して一カ月であることに注意します。その時期に「雪」は季節はずれなので、橋本さんが洋子の発言をおかしく思っていることを説明します。